

事業の背景・目的

ツシマウラボシシジミは対馬に生息しているが、シカの食害により食草が減り個体数が激減している。当園では平成29年度よりツシマウラボシシジミ生息域外保全事業を行っている。現在飼育個体の無精卵数が増加しており原因究明のため実験を計画中である。フサヒゲルリカミキリは岡山県、長野県の高原に生息しているが、乱獲等により個体数が激減している一方、本種は昆虫園等施設内における安定的な飼育繁殖方法が確立されていない。今後、対策を検討し設備を整え再導入に備える。

事業の内容

ツシマウラボシシジミ生息域外保全事業

- ・ 生体の休眠、休眠解除を実施。幼虫229個体の生存を確認。



休眠の様子



休眠解除の作業

- ・ インキュベータを導入し、個体実験が可能な設備を整えた。



- ・ 保全の取り組みについての展示はチョウ飼育室前に常設している。



フサヒゲルリカミキリ生息域外保全モデル事業

- ・ 幼虫の死亡原因と対策を協議した。乾燥や休眠時の温度管理対策が必要であると考えられる。

- ・ インキュベータを導入し、個体の導入に備えた。



得られた成果

- ・ インキュベータを4台導入した。
- ・ 休眠状態に入ったツシマウラボシシジミ244個体のうち229個体が休眠解除に至り、4月に羽化する見込み。導入したインキュベータや既存設備で飼育し、無精卵数が増加傾向にある要因の調査実験を行う。実験のためペアを多数成立させる予定であり、交配・飼育に人員が必要となる。生体展示やパネルでの普及啓発は継続する。
- ・ フサヒゲルリカミキリの死亡要因については専門家の意見を取り入れ対策を講じる。死亡要因の整理・検討をした結果、①容器である試験管の開放部を塞がないことによる休眠基材と幼虫の乾燥、②設備上の最低温度でも幼虫が活動し消耗、③管理作業中に定温から室温へ温度が変化し幼虫が消耗した可能性等が示唆された。生体が得られた場合インキュベータで管理し、休眠中は試験管に栓をするほか生息地に合わせた温度管理を行えないか検討する。
- ・ 事業終了後、足立区の承認を得ることができれば継続する見込み。